

名村造船百年史

目次

前口絵

ごあいさつ 代表取締役会長 名村建彦
刊行にあたって 代表取締役社長 名村建介

沿革編

序 章 創業前後 明治11年(1878) ▶ 大正2年(1913)

名村源之助、造船業に挑む

播州に生まれ、神戸で造船業と出会う —— 26
大阪鉄工所で、弱冠26歳の「職長」に —— 27
日露戦争後の不況と造船業界の新たな模索 —— 28
母の死を契機に、独立・創業へ —— 30
安治川で独立・創業、さらに難波島に本拠を移転 —— 31

第1章 名村造船鉄工所の誕生 大正2年(1913) ▶ 昭和5年(1930)

木津川筋の難波島で事業を拡充する

難波島を本拠に、独立自営の造船業を始める —— 36
第一次世界大戦の“大戦景気”に活気づく海運・造船業界 —— 38
1,000総トンクラスの船舶を着実に建造 —— 39
好況に浮かれず、堅実経営で将来に備える —— 41
ストック・ボートの建造に着手 —— 43
官庁工事や陸上工事で、不況を乗り切る —— 45
源之助、関東大震災に遭遇 —— 46
「名村汽船合資会社」を設立し、海運業へ —— 47
修繕船渠を手に入れ、新たな飛躍をめざす —— 47

第2章 株式会社名村造船所の設立と発展 昭和6年(1931) ▶ 昭和20年(1945)

戦時統制下、経営基盤を固める

村尾船渠を買収して、株式会社を設立 —— 50
不況を脱しはじめ、堅調に新造船を伸ばす —— 52
経営基盤を支えた修繕船事業と陸上工事事業 —— 53
初の利益計上と室戸台風の被災 —— 55
中手造船所めざして、一歩ずつ業容拡大 —— 56
戦時下に、大幅な工場拡張・増設を計画 —— 59

用地を買収し、船渠1基、船台2基を新設	60
資材不足のなか、新造船建造に力をつくす	62
名村源之助会長、名村源社長体制へ	64
名村汽船株式会社の設立	65
6次におよぶ徴用の受け入れと技術指導	66
資材を分散・疎開させて、終戦を迎える	68

第3章 戦後の再出発と計画造船 昭和20年(1945)▶昭和29年(1954)

経営基盤の再興と設備の近代化へ

終戦と戦時標準船の続行工事	70
漁船建造工事から「計画造船」へ	72
資材・人材の確保と従業員組合の結成	73
終戦直後の源之助会長のエピソード	76
大証上場と社内体制の強化で経営基盤を構築	78
戦後発展の礎となった当社初の大型外航船「南海丸」	80
修繕船工事を契機に、大阪商船・日本郵船と取引始まる	82
「東海丸」「第十一東西丸」の建造で、技術・設備を近代化	83
朝鮮戦争後の不景気をアイドル対策で乗切る	86

第4章 「造船大国日本」を背景に 昭和30年(1955)▶昭和38年(1963)

1万総トン超船の建造で業界地位を確立

日本郵船から初受注した「三笠丸」の建造	88
「川筋で、郵・商両社の船を一度に引き受けたのは、うちだけだ」	90
輸出船ブームで世界一の「造船大国日本」へ	92
優秀外航定期船「長良丸」など、大型船舶を相次いで建造	94
活気づく工場と源之助会長の信念	96
陸上工事部門の拡充・強化の第一歩を踏み出す	98
川筋造船所初の1万総トン超の船舶を建造	100
“名人芸”を超えた川筋造船所の進水技術	102
設計・造船部の拡充と設備投資のレベルアップ	104

第5章 未曾有の造船ブームのなかで 昭和39年(1964)▶昭和45年(1970)

高速化と大型化の技術・設備で躍進

突貫工事で施設・設備を拡充	106
「シヨップ制」から「ステージ制」へ組織改革	108
技術を証明した「Mid-Body」「Fore-Body」の建造	110
二列艙口の定期貨物船「りおでじゃねいろ丸」の建造	111
高速定期貨物船「伊豫丸」の建造	112
外国船の建造ラッシュを迎える	114
名村汽船と小谷汽船の合併により大阪船舶が発足	117

創業者名村源之助会長の逝去	118
工事能力を高め、修繕船の大型化に対応	121
鉄骨、橋梁の実績を積み重ねる鉄構部門	125
懸案の電算機導入に取り組む	128
EPMの導入で合理化・コストダウンを実現	129
木材・重量物・自動車運搬船の建造	131

第6章 大型タンカー時代から造船不況へ 昭和46年(1971)▶昭和54年(1979) 伊万里時代の到来と経営危機

船舶大型化時代の新造船所を計画	138
九州・伊万里に新天地を求めて	140
地元と伊万里工場進出の本協定を調印し起工	141
ニクソンショック後の「乱気流」への対応	144
造成と同時並行して工場建設に奮闘	147
念願の新造船所「伊万里工場」を稼働	149
第1次オイルショックと“三重苦”	152
深刻化する不況のなかで、伊万里工場の第1船を竣工	155
政府が造船の操業短縮を勧告	157
コスト低減推進本部を設置	159
造船部門を伊万里に集約する「生産構造改善計画」を策定	160
希望退職を募る機構改革を実施	161
政府の造船業界支援策と当社の「新経営改革計画」	162
第2次オイルショックの最中、名村源社長、退任を決意	165

第7章 ミニブーム後の円急騰と韓国の台頭 昭和54年(1979)▶昭和63年(1988) 業績の回復と不況の再来

小野塚社長・木田副社長体制で再建計画を始動	168
作業の効率化と品質向上めざす改善活動	170
4期ぶりの債務超過解消と菱田社長の就任	172
奮闘する伊万里工場の海洋陸機部門	175
苦闘する大阪残留の海洋陸機部隊	176
再建から4年で累積赤字を一掃	177
ワークサンプリングを活用して「20作戦」に取り組む	179
炭酸ガス半自動溶接機の拡大と「CADAM」の導入	180
30%コストダウンをめざす「全社IE運動」の展開	181
「全社IE運動」の成果と災害への対応	183
生産管理システム「CAPOSS」の導入	184
「ID(伊万里・ダントツ)作戦」を開始	186
三好直彦社長就任と、プラザ合意後の円高への対応	187
深刻さを増す造船不況下で奮闘する出向社員たち	189
さらなる苦境のなかで、名村建彦社長就任	191

第8章 造船不況からの脱却とゆるやかな需要拡大 昭和63年(1988) ▶平成12年(2000)

〈存在感〉のある中手造船所をめざして

- 名村建彦社長の就任と経営理念「存在感」———— 194
- 造船・鉄構両部門の体質強化で「二本足経営」確立をめざす———— 195
- 造船部門の再生、拡充に全力をそそぐ———— 196
- “順風”を生かした積極的な事業展開で4期ぶりに黒字転換———— 198
- 全社的IT化をめざす「WIN21」の始動と創業80周年———— 199
- パソコンLANによる「調達システム」の稼働———— 201
- 鉄構事業部専用工場の新増設———— 202
- 技術力の強化と鉄構事業の基盤確立をめざして———— 203
- 海外で「修繕船」と「鉄構」事業に挑むタイププロジェクト———— 204
- 転換社債の発行で自己資本比率を大幅改善———— 206
- 赤字(市場価格)で受注したものを、いかに黒字化するか———— 207
- 「橋建協」への再入会をはたす———— 208
- 「名村造船 CIM 構築プロジェクト」の始動———— 209
- 阪神・淡路大震災の復旧工事に活躍———— 210
- 機械や環境分野など多角化への模索———— 212
- 伊万里湾に架かる「伊万里湾大橋第1期工事」———— 213
- 国内2例目の「少数主桁橋」工事とUTSEの活用———— 214
- ダイオキシン対策にすぐれた乾溜ガス化炉の事業化———— 215
- 国内外との競争力強化のために———— 215
- 第2代社長を務めた名村源元会長の逝去———— 216
- 「大型化」「同型船連続建造」「LPG船建造」に挑む———— 217

第9章 熾烈な国際競争と造船ブームの再来と終息 平成13年(2001) ▶平成23年(2011)

新たな変身・変革で、より強い企業集団へ

- VLOC(超大型鉍石運搬船)第1船の竣工———— 220
- 函館どつくに資本参加して、造船事業再建を全面支援———— 221
- パナマックス連続建造「BCプロジェクト」———— 222
- 課題山積の「セミレフLPG船」初挑戦———— 223
- 省エネフィン「NCF」の開発———— 224
- 中期経営計画「進化 Evolution 21」の始動———— 224
- 環境事業から撤退し、メンテナンス業務を移管———— 226
- 「安定した高品質」を確保するための試行錯誤———— 226
- 船腹需要の構造変化と新造船需要の上昇———— 228
- 1本ドックの限界を打ち破る、画期的な増産計画を着想———— 228
- 第1次大型設備投資でケーブサイズ12隻体制へ———— 229
- 船殻生産3Dモデルの実船適用に挑戦———— 230
- 中期経営計画「サバイバル 2007」の始動———— 231
- ブロック内製化率の大幅改善をめざす第2次大型設備投資———— 233
- 長時間株主総会の攻防———— 234

念願のVLCC建造と、世界初WOZMAX開発に挑戦	235
技術と人的資源の活用で、体質改善に取り組む鉄構事業部	236
さらなる増産をめざして800トンゴライアス2基体制へ	237
念願の連結売上高1000億円を達成	238
世界経済の暗転「リーマンショック」	239
勝ち残りをかけた「カイゼン」活動	240
建造コスト削減をめざす「CS20作戦」と新人事制度の導入	241
名村建介新社長の就任	242
さらなる100年めざして新たな航海へ!	243

創業100周年記念式典・行事	248
地元イベントへの共催・参加	253

中口絵

資料編

1 現行定款	264
2 歴代代表取締役	268
3 役員任期一覧	270
4 組織の変遷	274
5 資本金・総資産等の推移	278
6 業績の推移	280
7 従業員数の推移	283
8 工場配置図	284
9 当企業集団の概要	288
10 新造船建造実績	292
11 鉄構製品納入実績	310
12 焼却炉納入実績	316

年表	318
----	-----

参考文献

写真提供

編集後記